2025年5月15日

臨床データ利用のお願い

海南病院では、以下の研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることをご希望されない場合などお問い合わせがありましたら、お手数ですが以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

進展型小細胞肺癌患者の化学療法前のアルブミンに基づく肝予備能評価モデルを用いた予後予測についての検討

2. 研究責任者

海南病院 呼吸器内科 第一呼吸器内科部長 中尾心人

3. 研究の概要

肺癌診療において採血検査で測定できる血清アルブミン値、ビリルビン値、血小板数といった項目は、診断および治療の際にルーティンで測定されることが多い項目です。近年これらの採血項目で算出できるアルブミンに基づく肝予備能評価モデルのスコアが、肺癌患者さんにおける治療効果および予後予測マーカーになるのではないかと報告されています。具体的には Albumin-bilirubin (ALBI)、Easy (EZ)-ALBI、Platelet-albumin-bilirubin (PALBI) および Platelet-albumin (PAL) といった4つのスコアです。しかし、化学療法を行った進展型小細胞肺癌患者さんでの ALBI などの予後予測における有用性を検討した研究は少なく、特に ALBI、EZ-ALBI、PALBI、PAL の4指標全てを検討した報告や日本人集団においての検討はまだ行われていないのが現状です。

そこで、当院で診断および治療を受けられた進展型小細胞肺癌患者さんの予後や1次治療の効果が、治療前の ALBI、EZ-ALBI、PALBI、PAL の値と関連性があるかを検討することを主目的とした、後方視的な臨床研究を行うことにしました。具体的に対象となるのは、2009年から2019年の間に進展型小細胞肺癌と臨床診断され、プラチナ併用化学療法を受けられた患者さんです。血清アルブミン値、ビリルビン値、血小板数は、通常の診療において施行される採血で既に測定されており、対象となった患者さんの背景や治療開始前後の臨床的特徴を後方視的に把握することは、新たな侵襲が無く、今後の肺癌診療を行う際に有用な情報が得られるものと期待されます。

4. 研究方法

- ① 対象となる患者さん

2009年1月から2019年12月の間に進展型小細胞肺癌と診断されプラチナ併用化学療法を行った患者さん。

② 使用する試料等

残余検体：使用しない。

カルテ情報：使用する。

カルテ情報から、治療開始時の患者背景や、血清アルブミン値・ビリルビン値・血小板数といった検査データ、および治療後の経過などを後方視的に抽出します。尚、データ収集は2022年6月30日時点でのデータを基準とします。

5. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」など各種法令に基づいて管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

6. 問い合わせ先・相談窓口

JA 愛知厚生連 海南病院 呼吸器内科 中尾心人

電話：0567-65-2511（代表）